まちを守る　使命と誇り

新宮町と古賀市を管轄する粕屋北部消防本部。そこには、365日昼夜を問わず火災や救急に出動し、またその予防に努める消防士たちの姿があります。今回は、現場の最前線で町民を守る隊員の活動や思いに迫りました。

【問い合わせ先】 役場地域協働課　☎963-1734（直）

新宮町・古賀市を守る組織

粕屋北部消防本部は昭和54年に発足し、今年で46年目を迎えます。新宮町と古賀市のおよそ9万2千人の安全と安心を日々守っています。近年多様化する救急需要に対応するため、令和5年度に救急隊を3隊から4隊に増隊しました。計画的に防災力の向上を図り、地域防災の要である消防団との連携や自主防災組織の育成など、地域に密着した取り組みを行っています。

「守る」ために「備える」

出動には、大きく分けて、火災・救急・救助の3つがあります。令和6年に受けた119番通報は、管内全体で6,124件です。出動件数は、火災が13件、救急が4,610件、救助が69件で、救急は1日あたり13件の計算になります。

災害はいつ発生するか分かりません。

「大切な人が暮らすまちを守る」その使命と誇りを胸に、いつ、何が起きても助けに向かえるように消防隊員たちは日々厳しい訓練を重ねています。

高齢化社会の到来に伴う救急需要の急増、複雑多様化する災害、特に近年の大規模な地震、豪雨などの自然災害が多発する状況下において、私たち消防の役割も多岐多様に及んでいます。

これらに迅速・的確に対応するため、将来にわたり消防組織基盤の強化に努め、私たち粕屋北部消防本部基本構想の理念である「ひとが育ち支えあう 安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして」を新宮町のみなさんとともに職員一丸となり邁進していきます。

消防長　長﨑 茂幸

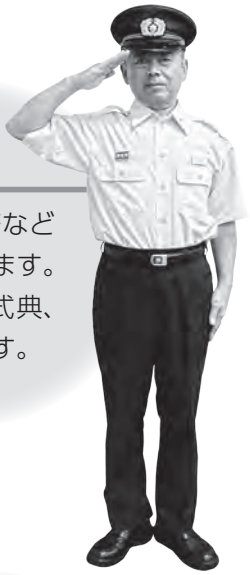
服装から見る消防の仕事

防火服

警防隊や指揮隊が着用します。消防隊は防火服・空気呼吸器・消火ホースなどを使用して、炎上している建物に挑みます。そして、迅速な消火活動により、被害を最小限に抑えます。指揮隊は災害現場の指揮を執るとともに、災害現場の安全管理もしています。また、今後の火災予防に役立てるために、火災の原因や損害を調査します。

救急服（救護隊）

救急隊が着用します。救急隊は傷病者の症状に必要な救急処置をしながら、症状に応じた医療機関へ搬送します。救急隊員の中には国家資格である救急救命士免許を有した救急隊員もいて、高度な救急処置を実施できる体制を確保しています。



制服

消防本部内の総務・予防業務などをする部署の日勤職員が着用します。その他、出初式や表彰などの式典、規律訓練の際も制服を着用します。

救助服（救助隊）

救助隊が着用します。現場でどこからでも目立つオレンジ色が特徴です。救助隊は人命救助のプロフェッショナルで、火災や交通事故などさまざまな災害で、逃げ遅れた人を助けに行きます。救助隊は交通救助、震災救助などあらゆる災害に対応するため、日々厳しい訓練をしていて、救助資機材を積載した救助工作車で活動します。

活動服（指揮隊・警防隊）

指揮隊、救助隊だけでなく日勤職員も着用します。活動しやすいようにストレッチ性があり、燃えにくい素材で作られているのが特徴です。

かすほく豆知識 ①

車両のデザインは、粕屋北部消防本部エンブレムの象徴でもある「鷹」をモチーフとしたデザインとなっていて、消防の月刊誌やSNSなどでも話題となっています。

消防の未来を担う

地域の「安心」できる存在に

粕屋北部消防本部　消防士　**今村敬人**

幼いころからサッカーをやっていて、体を動かす仕事に就きたいと思っていました。人を助ける消防吏員への憧れと、父が新宮町の消防団に入っていたこともあり、生まれ育った地域を管轄する粕屋北部消防本部の消防士になりました。

昨年千葉県で行われた「第52回全国消防救助技術大会（ロープブリッジ救出）」に出場したことが、とても印象に残っています。大会の訓練もそうですが、日ごろの訓練でも一つ一つできることが増えていくのがとても嬉しく、そのできるようになったことが、地域のみなさんの「安心」につながるのではないかと感じています。

もし災害が起こっても「消防士がいるから安心できる」と思ってもらえるような存在でありたいです。

今年は10月まで暑さが続くと言われています。水分補給をしっかりして、熱中症には気をつけてください。

緊張が走る 通報から出動まで

1 指令センターからの出動要請

2 準備に向かう隊員

3 素早く出動服に着替える

4 消防車に乗り込む隊員

5 現場へ走る消防車

1「福岡都市圏消防共同指令センター」から指令を受けると出動する車両が赤く光り「出動」と表示されます。

2 出動指令を受けると隊員たちは一斉に準備へ駆け出します。一刻も早い出動が求められます。

3 出動服を着用。最小限の動作で、あっという間の早業です。

4 準備が整えば、すぐさま車両に乗り込み現場へ。指令からおおむね1分足らずで出動です。

5 サイレンを鳴らして現場をめざします。大切な人とまちを守るため、いつでもどこでも駆け付けます。

若手消防士にインタビュー

いちはやく「日常」を取り戻せるように

粕屋北部消防本部　消防士　**仮屋萌香**

高校生まで水球をやっていて、水難救助に携わりたいと思い消防士になりました。

消防に入るまでは、救急車が消防署から出動していることすら知りませんでした。「消防＝火災」のイメージかと思いますが、救急や救助など多岐にわたります。

現在、粕屋北部消防本部では３人の女性消防士が活躍しています。災害現場での女性特有のデリケートな状況などにも対応しています。男性のイメージが強い消防士ですが、女性も活躍できる現場です。

私自身１年目で経験した建物の全焼火災が印象に残っています。管内は比較的火災が少ないため、今でもその光景は目に焼き付いています。

もし災害が起こっても、いち早く日常を取り戻せるよう消防吏員として手助けできるようこれからも日々の訓練など頑張っていきたいです。

全国消防救助技術大会に出場しました

８月30日、兵庫県立広域防災センター兵庫県消防学校で「第53回全国消防救助技術大会」が開催されました。この大会では、年に一度全国の救助隊員が日ごろ培った心と体、そして技術を競い合います。

粕屋北部消防本部からは、福岡県消防救助技術指導会、九州地区消防救助技術指導会を勝ち抜いた２チーム７人の隊員が出場しました。

ほふく救出　三船誉純隊員、初山由樹隊員、東玲司隊員
ロープブリッジ救出　渋田幸周隊員、山下凜太朗隊員、今村敬人隊員、龍空夢隊員

かすほく豆知識 ②

消防本部のエンブレムは、各消防本部によって異なります。粕屋北部消防本部のエンブレムは大空に舞う鷹を消防に見立て、片時も翼を休めることなく管内を隈なく監視し、有事即応することで住民の安全を守り抜く姿をイメージしています。

▲警防課長　水上和弥